

福島原発事故から 10 年目の今、私たちは再び見えない敵との闘いを余儀なくされている。相手は新型コロナウイルス。原発事故では放射能から逃れるために、多くの住民が避難を余儀なくされた。法律上は、現在も「緊急事態」下にある。一方、コロナでは緊急事態発令後、学校閉鎖や外出・移動の禁止で、都市は封鎖された。中国に端を発した新型コロナは世界中に広がり、感染者は 5 月 27 日現在 560 万人、死亡者は 34.9 万人、世界経済も麻痺している。二つのパンデミックに、私たちはどう立ち向かうのか。

二つのパンデミックの共通点

原発事故も新型コロナも、ある日突然起こったかに見える。その結果、人々は見えない脅威におののき右往左往する。いつ自分が炎を被ってもおかしくないからだ。原発事故の後、福島の人々は「近寄るな」と遠ざけられ、被害者があたかも加害者でもあるかのように差別された。今回、大阪の某市会議員は「コロナ感染者は殺人鬼」と放言し、感染者を扱う病院の医師の子どもは、幼稚園で隔離されたという。事程左様に、ヒトは見えない脅威に弱いのだ。

だが、冷静に考えれば、原発事故も新型コロナも起こるべくして起こった事象だ。原発は必ず事故を起こす、これは開発当初から心ある専門家たちが言ってきた。チェルノブイリ事故を他人事としてしか見なかった結果が、福島事故の真の原因だ。コロナは本来コウモリに宿るウイルスだが、人間が自然と森林を破壊し、ヒトとの接触が頻繁になった結果だ。

新型コロナは中国発だが、世界中のコウモリはウイルスに感染している。新型コロナは、たまたまヒトに感染する性質を獲得した結果に過ぎない。中国では 2002 年に、SARS コロナウイルスによる感染で、大きな犠牲を払った。韓国や台湾は SARS の経験を生かして、新型コロナにも冷静に対処できた。

SARS と新型コロナの遺伝子の構造は殆ど同じだ。たまたま日本では SARS 患者が出なかった為、他人事のように無視してきた結果が、この度の新型コロナへの対処のまずさだ。ウイルスの存在は、PCR 検査で遺伝子を確認する以外にない。原発事故で、政府は

児童の甲状腺の放射能検査をまともに行わず、未だにその影響を否定している。新型コロナでも、国は PCR 検査をまともに行わない。この国の為政者たちは、事実をまともに見ようとしない点で一貫している。(余談だが、第二次大戦の「敗戦」を未だに「終戦」と言い続けているではないか。)

冷静に事実を見よう

福島原発事故の影響は今も続いている。私達はこの 10 年、福島の放射能汚染を継続的に測定し、汚染マップを作り、農産物や山菜などの放射能も測定し、その推移を見てきた。その結果はこれまで報告した通りだが、測定の継続で様々な事実が明らかになった。福島原発事故は世界に大きな衝撃を与え、エネルギー政策の転換をもたらした。未だに原発に固執しているのは、この国の政府位だ。

新型コロナで破綻した世界経済は今、大きな転換点に立たされている。多くの人々が、これまでの経済成長優先の社会構造を変えなければ、第 2・第 3 のパンデミックが起こると感じ始めている。便利と金が支配する社会に未来はない。ヒトも自然の一員であることを自覚し、見えない脅威を見る努力をしなければならぬ。近年の度重なる自然災害は、ようやく地球温暖化を見える化しつつある。緩慢が故に見えない脅威はまだある。過去 27 年間に、地球上の昆虫の 75% が絶滅した。

レイチェル・カーソンが 1962 年に予言した「沈黙の春」を、私たちは今、迎つつあるのだ。そのつけはきっとやって来る。

(2020 年 5 月 27 日 河田)